



保護者会通信

2012年(平成24年)3月1日 No.6

編集・発行

京都ノートルダム女子大学
保護者会事務局

〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1
TEL:075-706-3700 FAX:075-706-3707
e-mail:hogoshakai@notredame.ac.jp



京都ノートルダム女子大学は創立50周年を迎えた

保護者会による50周年事業への協力

京都ノートルダム女子大学保護者会は50周年事業積立金で記念音楽CD "College Song & Hymns"への製作助成、文化的環境の充実 "茶室整備"への助成、新校舎の設備への助成を創立50周年記念事業といたしました。平成23年12月10日(土)の創立50周年記念式典の当日、懇親会終了後、学長室におきまして、目録を贈呈させていただきました。

記念音楽CD "College Song & Hymns"は本学の学生・教職員はもちろんのこと、創立50周年記念式典にお越しいただきました皆様にお渡しいたしました。また、文化的環境の充実 "茶室整備"への助成として当日午後2時30分よりお茶室前にて庵号扁額の除幕式並びにお披露目茶会を開かせていただきました。除幕式には和田理事長様、藪内学長様、茶道部をご指導くださる茶道裏千家淡交会の政塙先生、茶道部学生にもご参加いただきました。お披露目茶会には海外からのお客様も多数ご参加いただき、静寂の中にも厳粛の内無事終了いたしました。

1994年7月31日にユニゾン会館が竣工したと同時にお茶室も竣工いたしました。

四畳半の本格的なお茶室でしたが、充分なメンテナンスにも手が回らず、庵号もないまま17年の歳月が流れました。京都ノートルダム女子大学が創立50周年の節目の年を迎えるにあたり、保護者会は本校校名の頭にある京都という文字を深く考え、歴史ある日本の都が残した伝統文化を継承し、伝統

京都ノートルダム女子大学
保護者会会長 北村 茂樹

力を知り、学ぶことが国際力を育むと考えました。そこでお茶室の整備の一環として、茶道裏千家千宗室お家元に相談したところ、こころよくお茶室に庵号をいただき、扁額をお茶室に掲げる運びとなりました。庵号は「神徳庵」です。京都ノートルダム女子大学にあるお茶室にもっともふさわしい庵号を戴いたと心より喜び、感謝しております。

茶道の言葉に一期一会と和敬静寂がございます。このお茶室でこの言葉をかみしめ、神様のもと教職員・学生・保護者が一体となり、お互いが知性と徳を持って成長していく為の自分を見詰め直す場として、また心やすらかな居心地のよい所となることを存じます。

最後になりましたが、保護者会の創立50周年記念事業の新校舎の設備への助成は保護者会理事会で大学と協議し、大学が必要とする施設整備を寄贈を行ないます。

寄贈した設備には京都ノートルダム女子大学保護者会の名前を表示して創立50周年記念事業であったこと未永く知っています。予定であることをご報告いたします。



裏千家茶道部
黒木 優貴



記念式典の後、記念懇親会(於:本学食堂)が開催されました。学長挨拶に続き、門川大作京都市長(代読:細見吉郎副市長)、河田悌一日本私立学校振興・共催事業団理事長、Dr. Mary Pat Seurkampメリーランド・ノートルダム大学学長よりご祝辞を賜りました。お祈りの後、梶田叡一元学長による乾杯で歓談に入り、蒔苗暢夫副学長の謝辞により終了しました。

記念懇親会終了後、学長室において、保護者会から創立50周年記念寄付金の目録贈呈が行われ、学長から保護者会に対し、厚く謝辞が述べられました。

その後、お茶室において、ノートルダム教育修道女会セントラル・パシフィック管区長、理事長、学長、保護者会会長等による庵号除幕があり、裏千家千宗室お家元より頂戴した庵号「神徳庵」が披露されました。

また、当日は、「記念ホームカミングデー」も開催され、中井恭子同窓会会長のご挨拶に始まり、ユージニア館お別れ式として同館の歴史を偲ぶスライドショーが紹介されました。その後、シスターメリーマイクル田代第2代学長、梶田叡一第5代学長、相良憲昭第6代学長を始め、卒業生の代表の皆様から懐かしい思い出等が語られました。また、学生サークル「京炎そでふれ!輪舞曲」による演目披露など、多くの卒業生・教職員が集い旧交を温め合いました。

なお、記念式典参加者全員に「創立50周年記念誌」を配付しました。

また、当日は、「記念ホームカミングデー」も開催

〈創立50周年記念式典等の報告・御礼〉

京都ノートルダム女子大学 事務局長 下地 隆

記念式典の後、記念懇親会(於:本学食堂)が開催されました。学長挨拶に続き、門川大作京都市長(代読:細見吉郎副市長)、河田悌一日本私立学校振興・共催事業団理事長、Dr. Mary Pat Seurkampメリーランド・ノートルダム大学学長よりご祝辞を賜りました。お祈りの後、梶田叡一元学長による乾杯で歓談に入り、蒔苗暢夫副学長の謝辞により終了しました。

記念懇親会終了後、学長室において、保護者会から創立50周年記念寄付金の目録贈呈が行われ、学長から保護者会に対し、厚く謝辞が述べられました。

その後、お茶室において、ノートルダム教育修道女会セントラル・パシフィック管区長、理事長、学長、保護者会会長等による庵号除幕があり、裏千家千宗室お家元より頂戴した庵号「神徳庵」が披露されました。

また、当日は、「記念ホームカミングデー」も開催され、中井恭子同窓会会長のご挨拶に始まり、ユージニア館お別れ式として同館の歴史を偲ぶスライドショーが紹介されました。その後、シスターメリーマイクル田代第2代学長、梶田叡一第5代学長、相良憲昭第6代学長を始め、卒業生の代表の皆様から懐かしい思い出等が語られました。また、学生サークル「京炎そでふれ!輪舞曲」による演目披露など、多くの卒業生・教職員が集い旧交を温め合いました。

平成23年12月10日(土)に挙行しました創立50周年記念式典並びに記念懇親会等を盛会裏に終えることができました。これもひとえに保護者会を始め多数の関係者のご支援の賜物と深く感謝しております。

記念式典(於:本学ユニゾン会館)は、ご来賓の方々を始め、ノートルダム教育修道女会のシスター方、保護者会役員・評議員、同窓生、大学関係者など約280名の来場者を迎えて挙行されました。藪内稔学長、和田環理事長の挨拶に始まり、中川正春文部科学大臣(代読:奈良人官房審議官)、荒巻禎一京都府公立大学法人理事長、Sr. Mary Anne Owens, SSNDノートルダム教育修道女会セントラル・パシフィック管区長よりご祝辞を賜りました。引き続き、カトリック京都司教区パウロ大塚喜直司教の司式によるミサ聖祭が行われ記念式典は終了しました。

なお、記念式典参加者全員に「創立50周年記念誌」を配付しました。

24年4月~5月 改修した場所に、現ユージニア館南側研究室、事務室(学生課、キャリアセンター)を移転

24年2月~3月 仕切改修解体工事

24年4月~7月 北山キャンパス総合整備計画について、大学と小学校による北山キャンバス計画推進合同会議を軸に、段階から「新ユージニア館」における意見要望を集約しつつ、より望ましい施設建設を目指して精力的に検討を進めています。既に工事施行業者も決定しましたが、今後の工事工程は次のようになっています。

26年8月~10月 現ユージニア館北側解体工事

26年5月~7月 新校舎供用開始

25年11月~26年4月 ユニゾン会館別館・耐震補強、全面改修工事

24年8月~10月 新本館竣工

25年10月 ユニゾン会館部分改修

24年8月~11月 解体工事及び埋蔵文化財発掘調査



完成予想図

今後のキャンパス整備計画について

既に工事施行業者も決定しましたが、今後の工事工程は次のようになっています。

予定となってます。

工事期間中ににおいては、引き続き、京都工芸繊維大学におけるノートルダム館及び同大学の一部施設の利用により、学生の皆さんのが業務や学園生活に支障のないよう対処していく所存でございますので、保護者会の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



キャンパスの竣工について

平成23年度 地区教育懇談会報告

平成23年度地区教育懇談会は、平成23年10月1日(土)、京都ノートルダム女子大学を会場に開催されました。

13時30分からの下地隆事務局長による開会の辞に始まり、教員会長の北村茂樹保護者会会長の



会員の皆様にご案内いたしました。また、当初、京都ノートルダム女子大学と保護者の距離を縮めてくださいました。また、大

学の教育方針もよくわかる力(学士力)の基礎を培つた

ました。

* 地区教育懇談会は大学

と保護者の距離を縮め

ました。

また、京都会場のみでの

開催となりました。岡山

開場参加希望の会員には、

京都会場に振り替えて、

ご参加いただきました。

10月29日、30日開催

平成23年度 ND祭保護者会バザー報告

本年度も第6回目となる保護者会主催によるバザーを、208教室にて賑わいのうちに終える事が出来ました。ひとえに保護者会や卒業生の方々、教職員、理事、評議員各位から寄贈品を賜ったお陰と、お買い物をいただいた多くの皆様のお力添えによる「絆」のたまものであったと、心より御礼申し上げます。近隣の方々も本バザーのお買い物を楽しんでいただけた様子でした。



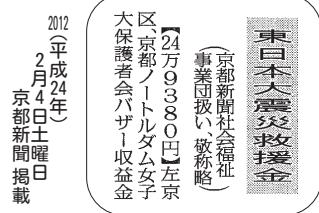
おかげ様で、本年多くの収益を上げることが出来ました。心より感謝申し上げます。事前の準備から最後の片付けまで、お世話になりました関係者の方々にも、紙面をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

バザー収益と寄付のご報告

平成23年度ND祭バザーの収益金は、249,380円でした。

この収益は東日本大震災義援金として役立てていただきましたため、京都新聞社会福祉事業団へ寄付いたしました。

バザー委員長 辻中 栄里



◎キャリアセンターの一年を振り返って

保護者の皆様には平素からキャリアセンターの運営をご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成22年秋に発足した"キャリアセンター"では、平成23年4月からセンター付専任教員を迎えて、従来の就職課としての進路・就職支援業務に加えて低学年次からのキャリア教育の推進を図る体制を強化してきました。

本学は平成22年度文部科学省の「就業力を自己開発する実践キャリア教育」をキャリア教育の骨子として位置づけ、キャリアセンターではキャリア形成科目の整備を行い、また、学生専用サイトからの求人検索システムの構築、ホームページの開設、キャリアアドバイザーの常駐による進路・就職相談の強化など、多面的に学生の就業力育成に取り組みました。

◎就職市場の変化と課題

今年度(平成23年)の就職状況を振り返りますと、昨年3月11日の大震災による影響は関西圏の本学学生には幸いにも少なく、求人件数は昨年よりも増加しています。しかし、企業の敵選採用(採用人数に関わらず採用基準に満たない者は採用しない)や一般事務職の採用数の減少など、昨今の社会情勢からも、学生の

キャリアセンター便り

就職活動の長期化は避けられない状況となっています。本学学生の希望職種の大半は一般事務職ですが、業務のIT化や経済状況の悪化で増減が左右される職種であり、今後もこの職種の採用数増加はあまり期待できるものではありません。一方、企業の採用担当者の女子の能力に対する評価は高く、最近では女子の営業職・総合職も男子同様に求められています。キャリアセンターでは学生の皆さんに様々な業種・職種への知識と理解を深め、就職活動の視野を広げてもらえるようにガイダンスやセミナーの開催を企画していく予定です。

◎保護者の皆様へ

社会が求めるキャリアスキルはますます多様化しています。学生の皆さんには京都ノートルダム女子大学で学んでいることに誇りを持ち、自信を持って就職活動に臨んでほしいと願っています。

上述でも申し上げましたが、キャリアセンターのホームページを平成24年1月末に開設いたしました。学生の皆さんを利用してやすいコンテンツを用意し、キャリア・就職関係のガイダンスや講座の予定を学年ごとに

わかりやすく表示している「キャリアカレンダー」の掲載、就職活動中に必要な書類「就職試験受験証明書発行願」は、今まで大学の窓口でしか受け取れなかったものでしたが、学外からもダウンロード可能となりました。また、学生専用ポータルサイトへのリンク先も設け、本学向けの求人情報検索や企業情報検索、キャリアに関する情報の取得ができます。

なお、ホームページへは、

<http://www.notredame.ac.jp/careercenter/>
または、大学ホームページの「就職・資格取得」「在校生の方へ」「各センター・図書館」からもアクセス可能となっています。

キャリアセンターでは、学生自ら自分に適した職業を見つけられるよう、在学中、卒業後に係わらないサポートを行ってまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(キャリアセンター事務室 真田 佳子)

編集後記

創立50周年記念式典
「記念懇親会」
「保護者会による寄付金
目録贈呈式及びお茶室
感謝申し上げます」と
の庵号除幕式」、「記念

平成24年度の入学生
から、共通教育のカリ
キュラムが新しくなり
ます。本学に入学した
学生が4年間の学士課
程教育を通して身につ
ける力(学士力)の基
盤・基礎を培つたことが
ありました。

ホームカミングデー」と
盛りだくさんの行事が
開催されました。50周
年の節目を経て、これ
と決意しております。

昨年11月にキャラコラ
イン館が竣工し、キャ
ラベの皆様のご支援・ご
協力をありがとうございました。

もに、新たな50年に向
が竣工する平成26年末
までを創立50周年記念
事業期間としておりま
す。今後とも、保護者
の皆様のご支援・ご
協力をよろしく申し上げ
ます。

（教務部 教務学事課
小林 忍）

平成24年度からの カリキュラム変更等について

最近、新聞などで関係の記事をよく目にしますが、大学教育は今、大きな変革期の中に入っています。本学においても、他大学等との連携の推進や北山キャンパスの整備などさまざまなプロジェクトが動いています。とりわけ、学生の皆さんにとって最も大切な学業の面について、カリキュラム改革など大きな変化が進行中です。

教務部では、現在の教育課程を円滑に実施する日々の業務に加え、教育委員会等で決められた方針に基づき、変化に対応するため制度の導入や充実を取り組んでいます。

ここでは特に平成24年度から全学共通に変わることを中心、これら一部を紹介します。

● キャリア教育を体
系化した共通教育

● 初年次教育を充実

● 人間文化学部
● 在学生も新設科目
● 学生便覧がリニューアル

● 幼稚園・小学校の専修免許課程新設

● GPA制度・CAP制活用で学力向上めざす